

# クラスタ環境でのアップグレード手順

(SigmaSystemCenter 1.3 から SigmaSystemCenter 2.1 へのアップグレード)

## 概要

本手順は、クラスタ環境に構築された SigmaSystemCenter 1.3 を SigmaSystemCenter 2.1 Update 2 にアップグレードインストールする際の手順について記載します。

本手順では CLUSTERPRO X 2.0 を使用した場合の具体的な手順を記載しています。

他のクラスタ製品、または、別バージョンの CLUSTERPRO を使用されている場合は、「アップグレードインストール手順の流れ」を参考にして、アップグレードインストールを行ってください。

本手順内で、CLUSTERPRO X 2.0 の設定を SigmaSystemCenter 2.1 用に変更する必要があります。設定内容の変更点については、「SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 2.1 の設定内容の変更点」を参照ください。

不明点などありましたら、問い合わせ窓口にお問い合わせください。

本手順は、SigmaSystemCenter 2.1 で データベースに SQL Server 2005 Enterprise Edition または、Standard Edition を使用することを前提としています。

その他のクラスタ環境構成、前提条件については「クラスタ環境構成、前提条件」を参照ください。

## 関連マニュアル

本書内で参照するマニュアルは以下の通りです。

- ・ SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料 第 4 版
- ・ SigmaSystemCenter 2.1 クラスタ構築資料 第 1 版
- ・ SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド 第 3 版
- ・ SigmaSystemCenter 2.1 コンフィグレーションガイド 第 3 版

## クラスタ環境構成、前提条件

本手順では、以下のクラスタ環境構成、前提条件でアップグレードインストールを行うものとして記載しています。

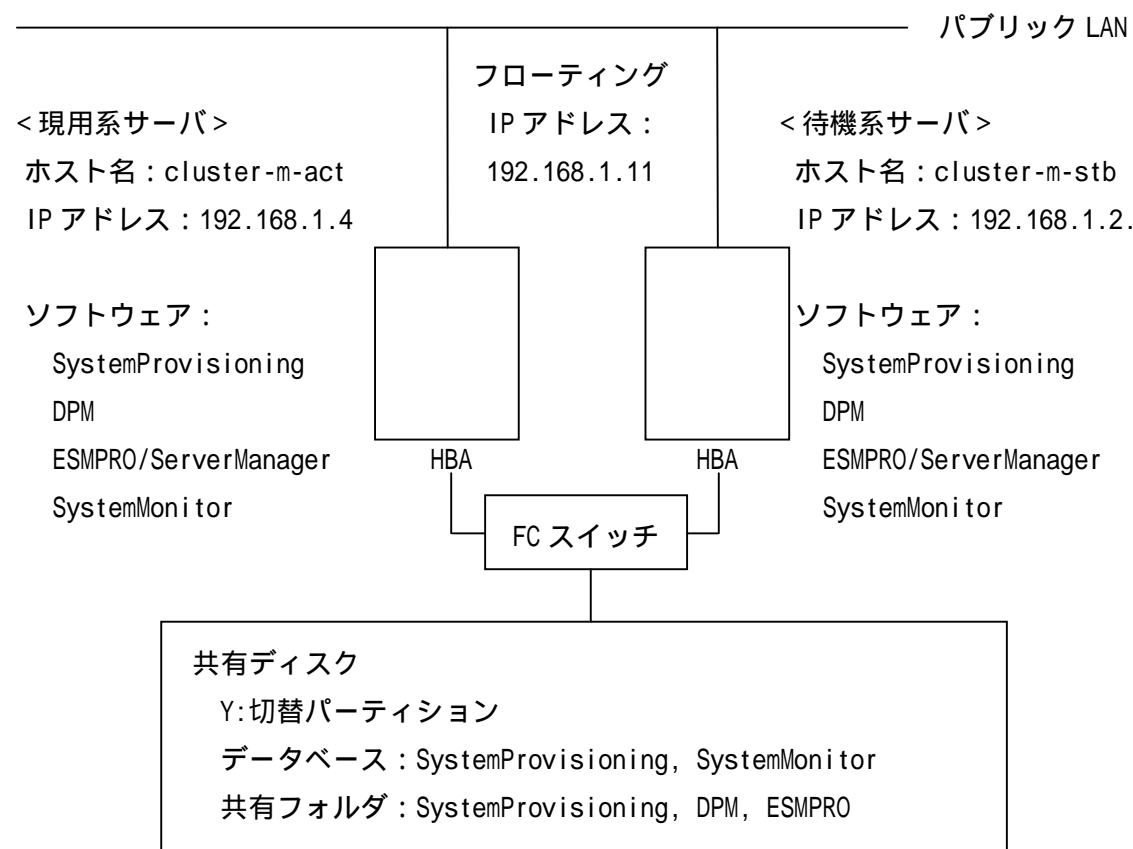
### クラスタ環境

現用系：1 台 / 待機系：1 台 の計 2 台による「2 ノード・共有ディスクまたは、ミラーディスク・片方向スタンバイ」構成

共有ストレージ：iStorage S1500 （ HBA による FC 接続 ）

### クラスタ構成イメージ（共有ディスクの場合）

（ IP アドレス、ドライブ名などは例です。 ）



## 前提条件

本手順では、スクリプトリソースにて、データベースのアタッチ、デタッチは現用系サーバ、待機系サーバとも以下であるという前提で記載しています。

- ・ 現用系サーバ

開始スクリプト：アタッチする

終了スクリプト：デタッチする

- ・ 待機系サーバ

開始スクリプト：アタッチする

終了スクリプト：デタッチする

上記と異なる場合は、データベースのアタッチ、デタッチの手順を適宜修正してください。

例えば、以下のように現用系サーバでアタッチ、デタッチしない場合は「アップグレードインストール手順の流れ」の手順のうち、該当する箇所を下記 [変更点] のように変更してください。

- ・ 現用系サーバ

開始スクリプト：アタッチしない

終了スクリプト：デタッチしない

- ・ 待機系サーバ

開始スクリプト：アタッチする

終了スクリプト：デタッチする

## [変更点]

### 5. インストールを行う前に（データベースのアタッチ）

5.の手順でのアタッチは実施不要です。

### 10. データベースの移行

データベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行した後、データベースのアタッチが必要です。

10.の手順の最後にそれぞれ以下のコマンドを実行してください。

DeploymentManager、SystemProvisioning のデータベースがアタッチされます。

- ・ DeploymentManager

```
-----  
sqlcmd -E -S (local)¥DPMDBI  
1> sp_attach_db 'DPM',  
    @filename1='Y:¥Data¥DPM_DATA.MDF',  
    @filename2='Y:¥Data¥DPM_LOG.LDF'  
2> go  
-----
```

• SystemProvisioning

```
-----  
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E  
1> sp_attach_db 'pvminf',  
    @filename1='Y:¥Data¥pvminf.mdf',  
    @filename2='Y:¥Data¥pvminf_log.LDF'  
2> go  
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

## 11. データベースのデタッチ

11. の手順のうち、(2) の手順 (SystemMonitor 性能監視のデータベースのデタッチ) は実施不要です。

(1), (3) の手順 (サービスの停止) のみを行ってください。

## アップグレードインストール手順の流れ

アップグレードインストール手順の流れを記載します。

### 1. 現用系サーバのアップグレード

#### 1.1. 現用系サーバアップグレードの前準備

- (1) CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの削除
  - ・スクリプトリソースを削除し、監視対象サービスを監視から外す。
  - ・レジストリ同期リソースを削除し、レジストリを同期対象から外す。
- (2) インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1 のインストール)
- (3) インストールを行う前に (SQL Server 2005 Enterprise Edition のインストール)
  - ・SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用する  
インスタンス (SSCCMDB) をインストールする。
- (4) インストールを行う前に (必要な各コンポーネントのサービスの手動起動)
  - ・SQL インスタンスサービスを手動で起動する。
- (5) インストールを行う前に (データベースのアタッチ)
  - ・デタッチされたデータベースをアタッチする。

#### 1.2. 現用系サーバアップグレード作業

- (6) ソフトウェアのアップグレードインストール
  - ・SigmaSystemCenter 2.1 にアップグレードインストールする。
- (7) SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL インスタンスのアンインストール
- (8) データベースのアップグレード
  - ・DeploymentManager が使用するインスタンス (DPMDBI) を  
SQL Server 2005 Enterprise Edition へアップグレードする。
- (9) サービスの設定
  - ・サービスを"手動"に設定する。
- (10) データベースの移行
  - ・DeploymentManager、SystemProvisioning のデータベースを、

共有ディスク / ミラーディスクへ移動する。

- ・データベースの移動後、データベースへのアタッチは行わない。

(11) データベースのデタッチ

- ・SystemMonitor 性能監視のデータベースをデタッチする。

(12) 共有ディスク / ミラーディスクへのファイルコピー

- ・DeploymentManager のファイルを共有ディスク / ミラーディスクへコピーする。

(13) 共有ディスク / ミラーディスクの不要フォルダの削除

- ・共有ディスク / ミラーディスクにある SystemProvisioning のフォルダを削除する。

(14) 設定ファイルの修正

- ・DeploymentManager (HP-UX) の設定ファイルを修正する。

(15) 使用するポートの変更

- ・Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで使用している場合、Web サーバ for DPM が使用するポートを変更する。

(16) クラスタシステムのリブート

## 2. 待機系サーバのアップグレード

### 2.1. 待機系サーバアップグレードの前準備

(17) フェールオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

(18) インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1 のインストール)

(19) インストールを行う前に (SQL Server 2005 Enterprise Edition のインストール)

- ・SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用するインスタンス (SSCCMDB) をインストールする。

(20) インストールを行う前に (必要な各コンポーネントのサービスの手動起動)

- ・SQL インスタンスサービスを手動で起動する。

(21) インストールを行う前に (レジストリの変更)

- ・管理サーバ for DPM のレジストリを変更する。

## 2.2. 待機系サーバアップグレード作業

### (22) ソフトウェアのアップグレードインストール (待機系サーバでの作業)

- ・ SigmaSystemCenter 2.1 にアップグレードインストールする。

### (23) SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL インスタンスのアンインストール

### (24) データベースのアップグレード

- ・ DeploymentManager が使用するインスタンス (DPMDBI) を SQL Server 2005 Enterprise Edition へアップグレードする。

### (25) サービスの設定

- ・ サービスを"手動"に設定する。

### (26) データベースのデタッチ

- ・ DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースをデタッチする。

### (27) 設定ファイルの修正

- ・ DeploymentManager (HP-UX) の設定ファイルを修正する。

### (28) 使用するポートの変更

- ・ Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで正在している場合、Web サーバ for DPM が使用するポートを変更する。

### (29) レジストリの変更

- ・ レジストリの情報を手動で再設定する。

### (30) 現用系サーバからファイルのコピー

- ・ SystemMonitor 性能監視、SystemProvisioning の一部のファイルを現用系サーバからコピーする。

### (31) サービスの停止

- ・ アップグレードインストール中に開始されたサービスを停止する。

## 3. アップグレード完了後の作業

### (32) フェールオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

(33) CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの変更

- ・スクリプトリソース、レジストリ同期リソースを  
SigmaSystemCenter 2.1 用の構成情報に変更（復元）する。

(34) クラスタシステムのリブート

(35) CLUSTERPRO での監視対象サービスの監視の停止（現用系サーバでの作業）

(36) Web ブラウザのキャッシュクリア（現用系サーバでの作業）

(37) アップグレードインストール後に必要な設定の実施（現用系サーバでの作業）

- ・DeploymentManager、SystemProvisioning の設定を行う。

(38) フェールオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

(39) Web ブラウザのキャッシュクリア（待機系サーバでの作業）

(40) アップグレードインストール後に必要な設定の実施（待機系サーバでの作業）

- ・DeploymentManager、SystemProvisioning の設定を行う。

(41) フェールオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

#### 4. 管理対象マシンのアップグレード

(42) 管理対象マシンのアップグレードインストール

- ・管理対象マシンのクライアントサービス for DPM のアップグレードインストール  
を行う。



## アップグレードインストール手順

以降は、CLUSTERPRO X 2.0 を使用した場合の具体的なインストール手順を記載します。

### 1.CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの削除

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

SigmaSystemCenter の各コンポーネントのコンソール、ツール等を起動している場合は、終了してください。

また、すべての Web ブラウザなどのアプリケーションを閉じて終了してください。

#### (1) CLUSTERPRO のサービス停止

- 1) 作業を行なう現用系サーバに Administrator でログオンします。
- 2) ブラウザを起動し、URL で “ http://localhost:29003/ ” と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
- 3) WebManager 画面の上部にある [ サービス ] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ停止 (T)」を選択します。
- 4) 「確認」画面が表示されたら [ OK ] ボタンをクリックして停止します。  
処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
- 5) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されるので [ OK ] ボタンをクリックします。
- 6) WebManager 画面の左サイドビューに、「停止」というメッセージが表示されている事を確認します。
- 7) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

#### (2) CLUSTERPRO Builder の起動と構成情報の保存

- 1) WebManager 画面の上部にある [ 設定 ] ボタンをクリックし、CLUSTERPRO Builder を起動します。
  - 2) 現在の CLUSTERPRO の構成情報を保存するため、CLUSTERPRO Builder の「ファイル (F)」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「情報ファイルの保存 (S)」をクリックします。
  - 3) 「保存」画面が表示されたら、現用系サーバ上の任意のフォルダ (例えば C:\TEMP) を指定し、clp.conf というファイル名が表示されているのを確認して [ 保存 ] ボタンをクリックします。
- (3) スクリプトリソース (またはサービスリソース) とレジストリ同期リソースの削除
- 1) 左サイドビューの中で、[Groups] フォルダの中の [failover] をクリックします。
  - 2) 右サイドビューの「リソース一覧」タブをクリックし、フェールオーバーグループに設定されているリソースを表示させます。
  - 3) 項目名の「タイプ」で“スクリプトリソース”(または“サービスリソース”)と表示されている部分で右クリックし、プルダウンメニューから「リソースの削除 (R)」をクリックします。
  - 4) 「scriptxxx (または servicexxx) が選択されました。」という画面が表示されるので、[はい] をクリックしてアイテムを削除します。
  - 5) 項目名の「タイプ」で“レジストリ同期リソース”と表示されている部分で右クリックし、プルダウンメニューから「リソースの削除 (R)」をクリックします。
  - 6) 「regsyncxxx が選択されました。」という画面が表示されるので、[はい] をクリックしてアイテムを削除します。
- (4) 情報ファイルのアップロードと CLUSTERPRO Builder の終了
- 1) 現在の CLUSTERPRO の構成情報をアップロードするため、CLUSTERPRO Builder の「ファイル (F)」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「情報ファイルのアップロード (U)」をクリックします。
  - 2) しばらくすると「アップロードは成功しました。」という画面が表示されるので、[了解] をクリックします。

3) CLUSTERPRO Builder を終了し、ウィンドウを閉じます。

(5) CLUSTERPRO のサービス開始

1) WebManager 画面の上部にある [ サービス ] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ開始 (A)」を選択します。

2) 「確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

3) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色 (正常) であることを確認します。

=====

2. インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1 のインストール)

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

.NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストールが完了した後、更新プログラム KB959209 のインストールを推奨します。

更新プログラムの詳細およびダウンロードは、以下 URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/959209>

-----

(1) [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] -

[プログラムの追加と削除] を選択します。

「プログラムの追加と削除」画面で、以下のインストール状況を確認してください。

- ・「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1」
- ・「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 日本語 Language Pack」

(2) インストールされていない場合は、.NET Framework 3.5 SP1 をインストールしてください。

- ・ Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1

1) SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。

2) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥dotNet Framework35 SP1¥dotnetfx35.exe

3) 画面に従ってインストールを進めてください。

・Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

1) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥dotNet Framework35 SP1¥ja¥dotnetfx35langpack\_x86ja.exe

2) 画面に従ってインストールを進めてください。

(3) .NET Framework 3.5 SP1 のインストール終了後、OS 再起動を促すメッセージが表示された場合は、以下の手順でクラスタのリブートを行ってください。

1) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。

2) WebManager 画面の左サイドビューにある “ クラスタ名 ” を右クリックし、プルダウンメニューから 「リブート(B)」 を選択します。

3) 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。

4) しばらくすると 「エラー」 または 「警告」 画面が表示されますので [OK] をクリックします。

5) しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。

6) OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。

7) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。

8) しばらくすると、マネージャ画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示さ

れます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。

=====

### 3. インストールを行う前に（SQL Server 2005 Enterprise Edition のインストール）

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

本手順では、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が SigmaSystemCenter 2.1 で使用する SQL Server 2005 Enterprise Edition のインスタンス（SSCCMDB）をインストールします。

SigmaSystemCenter 1.3 の運用にて、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースを SQL Server 2005 Enterprise Edition に構築している場合も、本手順に従って SigmaSystemCenter 2.1 で使用するためのインスタンスをインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL Server 2005 Enterprise Edition のインスタンスを、SigmaSystemCenter 2.1 で使用することができないためです。

- 
- (1) SQL Server 2005 Enterprise Edition CD（1 枚目）または DVD を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。
  - (2) DVD / CD-RW ドライブ配下の以下のフォルダ配下の setup.exe をダブルクリックします。
    - ・ CD の場合：ルート直下
    - ・ DVD の場合：Servers フォルダ
  - (3) インストーラの画面が起動します。  
表示される画面に従って操作を進めてください。
  - (4) セットアップの途中で、「インストールするコンポーネント」ダイアログボックスが表示されます。  
[SQL Server データベース サービス (S)] チェックボックスをオンにし、  
[次へ (N)] をクリックします。

- (5) 「インスタンス名」ダイアログボックスが表示されます。  
[名前付きインスタンス(A)] をオンにし、テキストボックスに「SSCCMDB」と入力し、[次へ (N)] をクリックします。
- (6) 「サービスアカウント」ダイアログボックスが表示されます。  
[ビルトイン システム アカウントを使用する (Y)] をオンにし、  
[ネットワーク サービス] を選択し、[次へ (N)] をクリックします。
- (7) セットアップの途中で、「認証モード」ダイアログボックスが表示されます。  
[Windows 認証モード(A)] をオンにし、[次へ (N)] をクリックします。  
以降は画面の指示に従って、セットアップを完了してください。
- (8) 以下のいずれかの方法で、インストールした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。
- ・ Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
  - ・ SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

=====

#### 4. インストールを行う前に (必要な各コンポーネントのサービスの手動起動)

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL のバージョンによって、サービスの表示名が異なります。

- 
- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

[SystemProvisioning]

- ・ MSSQL\$PVMINF\_INSTANCE または SQL Server (PVMINF\_INSTANCE)

[SystemMonitor 性能監視]

- ・ MSSQL\$RM\_PFMDBIS または SQL Server (RM\_PFMDBIS)

SystemMonitor 性能監視で使用するデータベースサービスはインストール時にインスタンス名を変更することが可能です。

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、サービスの表示名は、"MSSQL\$インスタンス名" または "SQL Server (インスタンス名)" となります。

---

## 5. インストールを行う前に (データベースのアタッチ)

---

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

本手順では、データベースの格納フォルダを以下とした場合を例にして記載します。

- ・ 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・ Y ドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

SQL インスタンス接続後のプロンプト "1>" に入力するコマンドを、紙面の都合で折り返していますが、実際には 1 行で入力してください。

それぞれの osql のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

-----

(1) SystemMonitor 性能監視のデータベースのアタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。  
共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

-----

```
osql -S (local)¥RM_PFMDBIS -E
1> sp_attach_db 'RM_PerformanceDataBase2',
    @filename1='Y:¥Data¥RM_PerformanceDataBase2.mdf',
    @filename2='Y:¥Data¥RM_PerformanceDataBase2_log.ldf'
2> go
```

-----

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

(2) SystemProvisioning のデータベースのアタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。  
共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```
-----  
osql -S (local)¥PVMINF_INSTANCE -E  
1> sp_attach_db 'pvminf',  
    @filename1='Y:¥Data¥pvminf.mdf',  
    @filename2='Y:¥Data¥pvminf_log.LDF'  
2> go  
-----
```

## =====

## 6. ソフトウェアのアップグレードインストール

## =====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

- 
- (1) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」(以下、省略します)の  
「3.2. インストール (アップグレード) を始める前に」を参照して、注意事項  
の確認、および、事前作業を実施します。

- 1) 「3.2.3. 管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア」  
の手順を実施してください。
- (2) 「3.4. SigmaSystemCenter 1.2、1.3 からアップグレードインストールに向け  
準備する」にしたがって、以下のコンポーネントのアンインストールを行います。

- Apache Tomcat



- Web サーバ for DPM
- SystemProvisioning Web Components

(3) 「3.6. 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」を参照して、アップグレードインストールを行います。

- 1) 「3.6.1. SQL Server 2005 コンポーネントのインストールパスを確認する」の手順を実施してください。
- 2) 「3.6.2. DPM のサービスを停止する」に記載された"DeploymentManager"で始まるサービスがすべて停止していることを確認してください。  
停止していないサービスがある場合は、記載された手順を参照してプロセスを強制終了してください。
- 3) 「3.6.3. インストール（アップグレード）を実行するには」の部分は、以下の手順を実施してください。
  1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
  2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。  
インストール CD-R:¥ManagerSetup.exe
  3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。  
[インストール] をクリックし、インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。選択完了後、[設定] をクリックします。
  4. 「設定」画面が表示されます。  
以下の項目を設定し、[OK] をクリックします。
    - [インストール先フォルダ] に SigmaSystemCenter 1.3 で設定していたインストール先フォルダを指定してください。
    - [SQL Server 2005] の [既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、インスタンス名(既定値: SSCMDB)を指定してください。
    - [Windows ファイアウォール] の指定をしてください。
  5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
  6. アップグレードインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。  
[はい] をクリックします。

7. 選択したコンポーネントのインストール（アップグレード）が開始されます。

- 4) 「3.6.4. Java 2 Runtime Environment のインストール」の手順を実施してください。
- 5) 「3.6.5. Apache Tomcat のインストール」の手順を実施してください。
- 6) 「3.6.6. ESMPRO/ServerManager のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
- 7) 「3.6.7. Web サーバ for DPM のインストール」の手順を実施してください。
- 8) 「3.6.8. データベース（DPM インスタンス）のアップグレードインストール」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. 「データベースインストール」ダイアログボックスが表示されます。  
既定値から変更する場合、インストール先のフォルダを指定し、[OK] をクリックします。

<注意>

データベースインストール先を変更した場合でも、オプションコンポーネントは、%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server 配下にインストールされます。

2. インストールが開始されます。インストール中に、自動でウィンドウがいくつか開き、閉じます。インストールは完了まで数分かかります。
  3. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
- 9) 「3.6.9. 管理サーバ for DPM のアップグレードインストール」の部分は、以下の手順を実施してください。
1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。  
[上書きインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
  2. 上書きインストール確認のダイアログボックスが表示されます。  
[OK] をクリックし、インストールを開始します。

3. 「データベースサーバ IP アドレス入力」ウィザードが表示されます。  
フェールオーバー IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。
4. 「管理サーバ ID 入力」ウィザードが表示されます。  
任意の ID を入力し、[次へ] をクリックします。
5. インストールの途中でパラメータファイルのコンバートツールが起動します。  
SigmaSystemCenter 2.1 では、コンバートツールを起動する必要がありません。以下の操作に従ってコンバートツールの起動をキャンセルしてください。
  - ・ 最新バージョンの CD-R から OS イメージを再作成するよう促すダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
  - ・ コンバートツール起動確認のダイアログボックスが表示されます。  
[OK] をクリックします。
  - ・ CD-R の挿入を促すダイアログボックスが表示されます。  
[キャンセル] をクリックし、コンバートツールの起動をキャンセルします。
6. アップグレードインストールが正常に終了すると、「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。
- 10) 「3.6.10. SystemMonitor 性能監視のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
- 11) 「3.6.11. SystemProvisioning のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
- 12) 「3.6.12. インストール (アップグレード) を完了するには」の手順を実施してください。

選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了した後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示される場合がありますが、この時点ではシステムの再起動は行わないでください。
- 13) 「3.6.13. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアップグレードインストールする」を参照して、旧バージョンの管理サーバ for DPM(HP-UX)のアンインストールを実施してください。その後、本バージョンの管理サーバ for DPM

(HP-UX) のインストールを行ってください。

(4) 「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」  
を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。

- 1) 「3.7.2. SigmaSystemCenter 1.3 以前の SystemMonitor 障害監視がインストールされている場合」の手順を実施してください。
- 2) 「3.7.4. ESMPRO/ServerManager をアップグレードインストールした場合」の手順を実施してください。

=====

## 7.SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL インスタンスのアンインストール

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

本手順では、SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL のインスタンスのアンインストールを行います。

インスタンスが SQL Server 2000 の場合と SQL Server 2005 の場合で、  
アンインストール手順が異なります。該当するほうの手順を参照ください。

-----

### SQL Server 2000 の場合

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
- (2) 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から 以下のインスタンスを選択し、[削除] をクリックします。

[SystemProvisioning]

- PVMINF\_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- RM\_PFMDBIS

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、  
変更後のインスタンス名 となります。

(3) 表示される画面に従って操作を進めてください。

SQL Server 2005 の場合

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
- (2) 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [Microsoft SQL Server 2005] を選択し、[削除] をクリックします。
- (3) 「コンポーネントの選択」ウィザードが表示されます。[SQL Server 2005 インスタンスのコンポーネントを削除する] チェックボックスをオンにし、[インスタンスの選択] で 以下のインスタンスをオンにします。

[SystemProvisioning]

- PVMINF\_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- RM\_PFMDBIS

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、  
変更後のインスタンス名 となります。

(4) 表示される画面に従って操作を進めてください。

=====

## 8. データベースのアップグレード

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

本手順では、DeploymentManager が使用する SQL Server 2005 Express Edition のインスタンスを SQL Server 2005 Enterprise Edition へアップグレードします。

-----

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

#### 停止するサービス一覧

##### [DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

- (2) DeploymentManager が使用する SQL Server 2005 のアップグレードインストール

- 1) SQL Server 2005 の上位バージョンへアップグレードします。SQL Server 2005 CD (1 枚目) または DVD を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。インストーラの画面が自動起動した場合は終了させてください。

##### <注意>

アップグレードを行う前に、以下の URL を参照し、アップグレードについての注意をお読みください。

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393\(SQL.90\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393(SQL.90).aspx)

- 2) コマンドプロンプトを起動し、カレントフォルダを DVD / CD-RW ドライブ配下の以下の指定フォルダに移動します。

- CD の場合: ルート直下

- ・ DVD の場合: Servers フォルダ

3) 以下のコマンドを実行しアップグレードを開始します。

```
start /wait setup.exe ADDLOCAL=SQL_Engine INSTANCENAME=DPMDBI  
UPGRADE=SQL_Engine SKUUPGRADE=1
```

インストーラの画面が起動します。

表示される画面に従って操作を進めてください。

4) セットアップの途中で、「インストールするコンポーネント」ウィザードが表示されます。

[SQL Server データベースサービス(S)] チェックボックスをオンにします。

5) [次へ(N)] をクリックします。

6) 「インスタンス名」ウィザードが表示されます。[次へ (N)] をクリックします。

7) 「既存のコンポーネント」ウィザードが表示されます。SQL Server データベースサービスを選択し、[次へ(N)] をクリックします。

8) 「ログイン情報のアップグレード」ウィザードが表示されます。

[Windows 認証モード]をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。

9) インストールが正常に終了すると、「Microsoft SQL Server 2005 セットアップの完了」ウィザードが表示されます。[完了(F)] をクリックします。

10) コマンドプロンプトの画面に戻ります。

### (3) 修正プログラム、Service Pack の適用

1) 以下のいずれかの方法で、(2)でアップグレードした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。

- ・ Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
- ・ SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

---

## 9. サービスの設定

---

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

本手順では「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料」を参照します。

- 
- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

### 手動に設定するサービス一覧

#### [ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service
- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Trap Redirection

#### [DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management



- SQL Server (DPMDBI)

[DeploymentManager (HP-UX)]

- DeploymentManager (HP-UX)
- DeploymentManager (HP-UX) Constructor
- DeploymentManager (HP-UX) Watcher

[SystemProvisioning]

- PVMService

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

[SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

- (2) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

ただし、SigmaSystemCenter 1.3 の構築時に「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソース (またはサービスリソース) によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順を実施してください。

( サービスがスクリプトリソース (またはサービスリソース) によって起動されるように設定してない場合は、本手順は実施不要です。 )

手動に設定するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- Apache Tomcat
- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation
- ESM Base Service

=====

## 10. データベースの移行

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

-----

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

[SystemProvisioning]

- PVMService

- (2) DeploymentManager のデータベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行します。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。  
ローカルのデータベースがデタッチされます。

-----

```
sqlcmd -E -S (local)¥DPMDBI
1> alter database [DPM] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'DPM',TRUE
3> go
```

-----

- 2) データベースのインストール先フォルダに存在する、データベースファイルを共有ディスク / ミラーディスクへ移動します。

- ・データベースのインストール先フォルダを

「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data」

- ・共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」

- ・Yドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

とした場合

<移動するファイル>

DPM\_DATA.MDF, DPM\_LOG.LDF

<移動元>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data

<移動先>

Y:¥Data

- 3) レジストリエディタを起動し、以下のレジストリを変更してください。

1. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行(R)] を選択します。
2. "regedit" と入力し、[OK] をクリックしてレジストリエディタを起動します。
3. 左サイドビューで HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager\_DB を参照(クリック) します。
4. 右サイドビューに値の一覧が表示されます。  
値の名前「DBInstallDir」の値のデータを以下のように変更します。

<変更前>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data

<変更後>

Y:¥Data

5. 変更が完了したら、レジストリエディタを終了してください。

(3) SystemProvisioning のデータベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行します。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。  
ローカルのデータベースがデタッチされます。

```
-----  
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E  
1> alter database [PVMINF] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE  
2> exec sp_detach_db 'pvminf', true  
3> go  
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

- 2) データベースのインストール先フォルダに存在する、データベースファイルを共有ディスク / ミラーディスクへ移動します。

- ・データベースのインストール先フォルダを  
「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data」
- ・共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・Y ドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

とした場合

<移動するファイル>

PVMINF.mdf, PVMINF\_log.ldf

<移動元>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data

<移動先>

Y:¥Data

=====

## 11. データベースのデタッチ

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

-----

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[SystemMonitor 性能監視]

- ・ System Monitor Performance Monitoring Service

- (2) SystemMonitor 性能監視のデータベースのデタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。  
共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

-----

```
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E
```

```
1> alter database [RM_PerformanceDataBase2] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
```

```
2> exec sp_detach_db 'RM_PerformanceDataBase2',TRUE
```

```
3> go
```

-----

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

- (3) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

## =====

## 12.共有ディスク / ミラーディスクへのファイルコピー

## =====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- SQL Server (DPMDBI)

「別のサービスの停止」画面が表示された場合は、[はい(Y)] をクリックしてください。サービスが停止されます。

- (2) 共有ディスク内、またはミラー化されたディスク内のデータパーティションへ Datafile フォルダ、PXE フォルダ配下をコピーします。

- 管理サーバ for DPM のインストールフォルダを

「C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager」

- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」

- Yドライブの Datafile フォルダを「Y:¥Datafile」、PXE フォルダを「Y:¥PXE」

とした場合

<コピー元>

C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile

C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥PXE

<コピー先>

Y:¥Datafile

Y:¥PXE

「フォルダの上書きの確認」画面が表示されます。[すべて上書き(A)] を  
クリックしてください。

=====

### 13. 共有ディスク / ミラーディスクの不要フォルダの削除

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) 共有ディスク内、またはミラー化されたディスク内のデータパーティションの  
CheckPoint フォルダを削除します。

- ・ 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・ Y ドライブの SystemProvisioning の CheckPoint フォルダを「Y:¥CheckPoint」

とした場合

<削除するフォルダ>

Y:¥CheckPoint

=====

### 14. 設定ファイルの修正

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) DeploymentManager (HP-UX) の以下の設定ファイルに記述を追加して ” 管理サーバ名 ”  
を設定してください。

<設定ファイル>

%Program Files%\dpm\_hpux\dpm\0000\conf\opc.properties

上記ファイルのマシン情報のエントリに以下を追加します。

opc.0001.hostname=<管理サーバ名>

例)

opc.0001.hostname=dpm\_cluster

## =====

### 15. 使用するポートの変更

## =====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで使用している場合、Web サーバ for DPM が使用する Tomcat とのポートが重複するため、DPM の Web コンソールが表示されません。ポートが重複しないように設定する必要があります。この場合は、ポートの変更を以下の手順に従って変更してください。

ポートが重複していない場合は、本手順を実施する必要ありません。

- 
- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
  - (2) サービス一覧から "Apache Tomcat" のサービスが停止していることを確認します。
  - (3) Tomcat をインストールしたフォルダ¥conf¥Server.xml をテキストエディタで開きます。既定値は (C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 6.0) です。また、Server.xml は事前にバックアップを取っておくことを推奨します。
  - (4) Server.xml 内の「8005」、「8080」、「8009」を任意の未使用ポート番号に変更します。それぞれ同じポート番号には設定しないでください。

<注意>

修正後のポートには、SigmaSystemCenter 1.3 で使用していたのと同じポートを指定



してください。

(5) Server.xml を保存し、エディタを閉じてください。

---

## 16. クラスタシステムのリブート

---

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) WebManager 画面の左サイドビューにある “ クラスタ名 ” を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート (B)」を選択します。
- (2) 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
- (3) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されますので [OK] ボタンをクリックします。
- (4) しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
- (5) OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。
- (6) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
- (7) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。
- (8) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

---

## 17. フェールオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

---

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

(1) WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を  
右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。

(2) 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェールオーバー) 先の待機系  
サーバを選択し、[OK] をクリックします。  
移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

(3) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が  
待機系のサーバ側で、すべて “ 起動済 ” になることを確認します。

=====

## 18. インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1 のインストール)

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

.NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストールが完了した後、更新プログラム  
KB959209 のインストールを推奨します。

更新プログラムの詳細およびダウンロードは、以下 URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/959209>

-----

(1) [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] -  
[プログラムの追加と削除] を選択します。  
「プログラムの追加と削除」画面で、以下のインストール状況を確認してください。

- ・「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1」
- ・「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 日本語 Language Pack」

(2) インストールされていない場合は、.NET Framework 3.5 SP1 をインストールしてく  
ださい。

- ・ Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1

1) SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。

2) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥dotNet Framework35 SP1¥dotnetfx35.exe

3) 画面に従ってインストールを進めてください。

・ Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

1) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥dotNet Framework35 SP1¥ja¥dotnetfx35langpack\_x86ja.exe

2) 画面に従ってインストールを進めてください。

(3) .NET Framework 3.5 SP1 のインストール終了後、OS 再起動を促すメッセージが表示された場合は、以下の手順でクラスタのリブートを行ってください。

1) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。

2) WebManager 画面の左サイドビューにある “ クラスタ名 ” を右クリックし、プルダウンメニューから 「リブート(B)」 を選択します。

3) 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。

4) しばらくすると 「エラー」 または 「警告」 画面が表示されますので [OK] をクリックします。

5) しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。

6) OS が再起動したら、作業を行う待機系サーバに Administrator でログインします。

7) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。

8) しばらくすると、マネージャ画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示さ

れます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。

(4) クラスタリブート後、待機系へのフェールオーバーグループのリソース移動を行ってください。

1) WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。

2) 「サーバ選択（グループ移動）」画面で、移動（フェールオーバー）先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。

移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

3) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて“起動済”になることを確認します。

=====

## 19. インストールを行う前に (SQL Server 2005 Enterprise Edition のインストール)

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

本手順では、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が SigmaSystemCenter 2.1 で使用する SQL Server 2005 Enterprise Edition のインスタンス (SSCCMDB) をインストールします。

SigmaSystemCenter 1.3 の運用にて、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースを SQL Server 2005 Enterprise Edition に構築している場合も、本手順に従って SigmaSystemCenter 2.1 で使用するためのインスタンスをインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL Server 2005 Enterprise Edition のインスタンスを、SigmaSystemCenter 2.1 で使用することができないためです。

-----

(1) SQL Server 2005 Enterprise Edition CD (1 枚目) または DVD を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。

(2) DVD / CD-RW ドライブ配下の以下のフォルダ配下の setup.exe をダブルクリック

します。

- ・ CD の場合: ルート直下
- ・ DVD の場合: Servers フォルダ

(3) インストーラの画面が起動します。

表示される画面に従って操作を進めてください。

(4) セットアップの途中で、「インストールするコンポーネント」ダイアログボックスが表示されます。

[SQL Server データベース サービス (S)] チェックボックスをオンにし、  
[次へ (N)] をクリックします。

(5) 「インスタンス名」ダイアログボックスが表示されます。

[名前付きインスタンス(A)] をオンにし、テキストボックスに「SSCCMDB」と入力し、  
[次へ (N)] をクリックします。

(6) 「サービスアカウント」ダイアログボックスが表示されます。

[ビルトイン システム アカウントを使用する (Y)] をオンにし、  
[ネットワーク サービス] を選択し、 [次へ (N)] をクリックします。

(7) セットアップの途中で、「認証モード」ダイアログボックスが表示されます。

[Windows 認証モード(A)] をオンにし、 [次へ (N)] をクリックします。  
以降は画面の指示に従って、セットアップを完了してください。

(8) 以下のいずれかの方法で、インストールした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。

- ・ Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
- ・ SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

=====

## 20. インストールを行う前に (必要な各コンポーネントのサービスの手動起動)

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL のバージョンによって、サービスの表示名が異なります。

-----

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

[SystemProvisioning]

- MSSQL\$PVMINF\_INSTANCE または SQL Server (PVMINF\_INSTANCE)

[SystemMonitor 性能監視]

- MSSQL\$RM\_PFMDBIS または SQL Server (RM\_PFMDBIS)

SystemMonitor 性能監視で使用するデータベースサービスはインストール時にインスタンス名を変更することが可能です。

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、サービスの表示名は、"MSSQL\$インスタンス名" または "SQL Server (インスタンス名)" となります。

## =====

## 21. インストールを行う前に (レジストリの変更)

## =====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

本手順では、DeploymentManager のレジストリを変更します。

-----

- (1) [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行(R)] を選択します。
- (2) "regedit" と入力し、[OK] をクリックしてレジストリエディタを起動します。
- (3) 左サイドビューで HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager を参照(クリック) します。

(4) 右サイドビューに値の一覧が表示されます。

値の名前「ShareRootDir」の値のデータを以下のように変更します。

- ・システムドライブを「C:¥」
- ・共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・YドライブのDeployフォルダ(共有フォルダ)を「Y:¥Deploy」

とした場合

<変更前>

Y:¥Deploy

<変更後>

C:¥Deploy

(5) 変更が完了したら、レジストリエディタを終了してください。

=====

## 22. ソフトウェアのアップグレードインストール (待機系サーバでの作業)

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

-----

(1) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」(以下、省略します)の「3.2. インストール (アップグレード) を始める前に」を参照して、注意事項の確認、および、事前作業を実施します。

- 1) 「3.2.3. 管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア」の手順を実施してください。

(2) SigmaSystemCenter 1.3 の以下のコンポーネントのアンインストールを行います。

- ・ SystemProvisioning

- 1) アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 1.3 CD-R (1/2)を DVD/CD-RW ドライブに挿入してください。

## 2) SystemProvisioning のアンインストール

1. コマンドプロンプトでカレントディレクトリを以下に移動します。

インストール CD-R:¥PVM

2. 以下のコマンドを実行します。

サイレントモードでアンインストールが実行されます。

```
PVMSetup.exe /x /s /v/qn
```

<注意>

サイレントモードでアンインストールされるため、  
タクスマネージャで「PVMSetup.exe」プロセスがなくなるまで  
お待ちください。

以上で SystemProvisioning のアンインストールは完了です。

(3) SigmaSystemCenter 1.3 の以下のコンポーネントのアンインストールを行います。

- ・ SystemMonitor 性能監視
- ・ 管理サーバ for DPM

## 1) アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 1.3 CD-R (1/2)を DVD/CD-RW ドライブに挿入してください。

2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥ManagerSetup.exe

3. 「SigmaSystemCenter - Manager Installer」画面が表示されます。左下の  
[アンインストール] を選択し、SystemMonitor 性能監視 、管理サーバ for DPM  
のチェックボックスをオンにします。

4. [実行] をクリックします。各コンポーネントのアンインストールが開始されます。

## 2) SystemMonitor 性能監視のアンインストール



SystemMonitor 性能監視 のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. MSDE2000 がインストールされていると、「SystemMonitor 性能監視 セットアップ」画面が表示されます。MSDE2000 をアンインストールする場合には、[はい(Y)]をクリックしてください。MSDE2000 がインストールされていない場合は、このダイアログは表示されません。手順 4.に進んでください。
2. アンインストールが開始します。アンインストール完了のメッセージが表示されるまでお待ちください。

<注意>

MSDE2000 から SQL Server 2000、SQL Server 2005 にアップグレードしている場合、「Microsoft SQL Server Desktop Engine (RM\_PFMDBIS)のアンインストールはできません」の旨のメッセージが表示されます。SQL Server 2000、MSDE2000、SQL Server 2005 のアンインストールは実行されません。[OK]をクリックし、手順 4.へ進んでください。

<補足>

MSDE2000 のアンインストール中に Microsoft SQL Server Desktop Engine の画面が表示される場合がありますが、アンインストールには問題ありません。  
[無視(I)]をクリックし、アンインストールを続行してください。

3. アンインストール完了の画面が表示されます。[OK]をクリックしてください。
4. アンインストール画面が表示されます。[削除(R)]をクリックしてください。
5. アンインストールが開始します。しばらくお待ちください。
6. アンインストール完了画面が表示されます。[完了(F)]をクリックしてください。
7. セットアップ完了のメッセージが表示されます。[OK]をクリックしてください。

以上で SystemMonitor 性能監視 のアンインストールは完了です。

### 3) 管理サーバ for DPM のアンインストール

1. 管理サーバ for DPM のアンインストールが開始し、「セットアップタイプ」

画面が表示されます。アンインストールを選択し、[次へ(N)]をクリックしてください。

2. 「ファイル削除の確認」画面が表示されますので、[OK]をクリックしてください。

3. 「セットアップステータス」画面が表示され、アンインストールを開始します。  
しばらくお待ちください。

4. 「メンテナンスの完了」画面が表示されますので、[完了]をクリックしてください。

以上で管理サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

#### 4) アンインストールを完了するには

選択したコンポーネントのアンインストールが完了すると、「SigmaSystemCenter - Manager Installer」画面が表示されます。選択したすべてのコンポーネントが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。

アンインストールが完了した後に、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示される場合がありますが、この時点ではシステムの再起動は行わないでください。

(4) 「3.4. SigmaSystemCenter 1.2、1.3 からアップグレードインストールに向け準備する」にしたがって、以下のコンポーネントのアンインストールを行います。

- Apache Tomcat
- Web サーバ for DPM
- SystemProvisioning Web Components

(5) 「3.6. 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」を参照して、アップグレードインストールを行います。

1) 「3.6.1. SQL Server 2005 コンポーネントのインストールパスを確認する」の手順を実施してください。

2) 「3.6.3. インストール（アップグレード）を実行するには」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。

2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥ManagerSetup.exe

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[インストール] をクリックし、アップグレード対象のコンポーネントの  
チェックボックスをオンにします。

選択完了後、[設定] をクリックします。

4. 「設定」画面が表示されます。

以下の項目を設定し、[OK] をクリックします。

- ・ [インストール先フォルダ] に SigmaSystemCenter 1.3 で設定していたインストール先フォルダを指定してください。
- ・ [SQL Server 2005] の [既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、インスタンス名(既定値: SSCCMDB)を指定してください。
- ・ [Windows ファイアウォール] の指定をしてください。

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。

6. アップグレードインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。

[はい] をクリックします。

7. 選択したコンポーネントのインストール（アップグレード）が開始されます。

3) 「3.6.4. Java 2 Runtime Environment のインストール」の手順を実施してください。

4) 「3.6.5. Apache Tomcat のインストール」の手順を実施してください。

5) 「3.6.6. ESMPRO/ServerManager のアップグレードインストール」の手順を実施してください。

6) 「3.6.7. Web サーバ for DPM のインストール」の手順を実施してください。

7) 「3.6.8. データベース (DPM インスタンス) のアップグレードインストール」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. 「データベースインストール」ダイアログボックスが表示されます。

既定値から変更する場合、インストール先のフォルダを指定し、[OK] をクリックします。

<注意>

データベースインストール先を変更した場合でも、オプションコンポーネントは、%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server 配下にインストールされます。

2. インストールが開始されます。インストール中に、自動でウィンドウがいくつか開き、閉じます。インストールは完了まで数分かかります。
  3. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
- 8) 「3.6.9. 管理サーバ for DPM のアップグレードインストール」の部分は、以下の手順を実施してください。
1. 「DeploymentManager セットアップへようこそ」ウィザードが表示されます。  
[次へ(N)]をクリックします。
  2. 「使用許諾契約」ウィザードが表示されます。使用許諾契約の内容を確認のうえ、同意される場合は、[はい(Y)] をクリックします。
  3. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。既定値から変更する場合、インストール先のフォルダを指定し、[次へ(N)] をクリックします。
  4. 「DeploymentManager の管理者パスワード設定」ダイアログボックスが表示されます。  
アップグレード前に使用していた管理者パスワードを入力し、[OK] をクリックします。
  5. 「詳細設定」画面が表示されます。既定値のまま、[OK] をクリックします。

<注意>

[全般]タブの "共有フォルダ" に、共有ディスクまたはミラー化されたディスクのデータパーティションのドライブのパスが指定されていないことを確認してください。

6. 「データベースサーバ IP アドレス入力」ウィザードが表示されます。  
フェールオーバー IP アドレスを入力し、[次へ (N)] をクリックします。

7. 「管理サーバ ID 入力」ウィザードが表示されます。

現用系サーバでのアップグレードインストール時に指定した管理サーバ ID を入力し、[次へ (N)] をクリックします。

8. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

9) 「3.6.10. SystemMonitor 性能監視のアップグレードインストール」の手順を実施してください。

10) 「3.6.11. SystemProvisioning のアップグレードインストール」の手順を実施してください。

11) 「3.6.12. インストール (アップグレード) を完了するには」の手順を実施してください。

選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了した後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示される場合がありますが、この時点ではシステムの再起動は行わないでください。

12) 「3.6.13. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアップグレードインストールする」を参照して、旧バージョンの管理サーバ for DPM(HP-UX)のアンインストールを実施してください。その後、本バージョンの管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールを行ってください。

(6) 「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。

1) 「3.7.2. SigmaSystemCenter 1.3 以前の SystemMonitor 障害監視がインストールされている場合」の手順を実施してください。

2) 「3.7.4. ESMPRO/ServerManager をアップグレードインストールした場合」の手順を実施してください。

=====

23.SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL インスタンスのアンインストール

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

本手順では、SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL のインスタンスのアンインストールを行います。

インスタンスが SQL Server 2000 の場合と SQL Server 2005 の場合で、アンインストール手順が異なります。該当するほうの手順を参照ください。

-----

#### SQL Server 2000 の場合

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
- (2) 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から 以下のインスタンスを選択し、[削除] をクリックします。

[SystemProvisioning]

- PVMINF\_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- RM\_PFMDBIS

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、変更後のインスタンス名 となります。

- (3) 表示される画面に従って操作を進めてください。

#### SQL Server 2005 の場合

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
- (2) 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム]

から [Microsoft SQL Server 2005] を選択し、[削除] をクリックします。

- (3) 「コンポーネントの選択」ウィザードが表示されます。[SQL Server 2005 インスタンスのコンポーネントを削除する] チェックボックスをオンにし、[インスタンスの選択] で 以下のインスタンスをオンにします。

[SystemProvisioning]

- PVMINF\_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- RM\_PFMDBIS

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、  
変更後のインスタンス名 となります。

- (4) 表示される画面に従って操作を進めてください。

## 24. データベースのアップグレード

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

本手順では、DeploymentManager が使用する SQL Server 2005 Express Edition のインスタンスを SQL Server 2005 Enterprise Edition へアップグレードします。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start

- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

## (2) DeploymentManager が使用する SQL Server 2005 のアップグレードインストール

- 1) SQL Server 2005 の上位バージョンへアップグレードします。SQL Server 2005 CD (1 枚目) または DVD を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。インストーラの画面が自動起動した場合は終了させてください。

### <注意>

アップグレードを行う前に、以下の URL を参照し、アップグレードについての注意をお読みください。

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393\(SQL.90\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393(SQL.90).aspx)

- 2) コマンドプロンプトを起動し、カレントフォルダを DVD / CD-RW ドライブ配下の以下の指定フォルダに移動します。

- CD の場合: ルート直下
- DVD の場合: Servers フォルダ

- 3) 以下のコマンドを実行しアップグレードを開始します。

```
start /wait setup.exe ADDLOCAL=SQL_Engine INSTANCENAME=DPMDBI
UPGRADE=SQL_Engine SKUUPGRADE=1
```

インストーラの画面が起動します。

表示される画面に従って操作を進めてください。

- 4) セットアップの途中で、「インストールするコンポーネント」ウィザードが表示されます。

[SQL Server データベースサービス(S)] チェックボックスをオンにします。

- 5) [次へ(N)] をクリックします。



- 6) 「インスタンス名」ウィザードが表示されます。[次へ (N)] をクリックします。
- 7) 「既存のコンポーネント」ウィザードが表示されます。SQL Server データベース サービスを選択し、[次へ(N)] をクリックします。
- 8) 「ログイン情報のアップグレード」ウィザードが表示されます。  
[Windows 認証モード]をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。
- 9) インストールが正常に終了すると、「Microsoft SQL Server 2005 セットアップの完了」ウィザードが表示されます。[完了(F)] をクリックします。
- 10) コマンドプロンプトの画面に戻ります。

### (3) 修正プログラム、Service Pack の適用

- 1) 以下のいずれかの方法で、(2)でアップグレードした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。
  - ・ Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
  - ・ SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

## 25. サービスの設定

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

手動に設定するサービス一覧

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service
- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Trap Redirection

#### [DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management
- SQL Server (DPMDBI)

#### [DeploymentManager (HP-UX)]

- DeploymentManager(HP-UX)
- DeploymentManager(HP-UX) Constructor
- DeploymentManager(HP-UX) Watcher

#### [SystemProvisioning]

- PVMService

#### [SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

#### [SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名

は、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

- (2) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

ただし、SigmaSystemCenter 1.3 の構築時に「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順を実施してください。

（サービスがスクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定してない場合は、本手順は実施不要です。）

#### 手動に設定するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- Apache Tomcat
- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation
- ESM Base Service

## 26. データベースのデタッチ

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

#### 停止するサービス一覧

- [DeploymentManager]
- DeploymentManager API Service

- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

#### [SystemProvisioning]

- PVMService

#### [SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

(2) DeploymentManager のデータベースのデタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。  
共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
-----
sqlcmd -E -S (local)\¥DPMDBI
1> alter database [DPM] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'DPM',TRUE
3> go
-----
```

- 2) レジストリエディタを起動し、以下のレジストリを変更してください。

1. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行(R)] を選択します。
2. "regedit" と入力し、[OK] をクリックしてレジストリエディタを起動します。
3. 左サイドビューで HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager\_DB  
を参照(クリック) します。

4. 右サイドビューに値の一覧が表示されます。

値の名前「DBInstallDir」の値のデータを以下のように変更します。

<変更前>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data

<変更後>

Y:¥Data

5. 変更が完了したら、レジストリエディタを終了してください。

(2) SystemProvisioning のデータベースのデタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。  
共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
-----  
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E  
1> alter database [PVMINF] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE  
2> exec sp_detach_db 'pvminf', true  
3> go  
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

(3) SystemMonitor 性能監視のデータベースのデタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。  
共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
-----  
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E  
1> alter database [RM_PerformanceDataBase2] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE  
2> exec sp_detach_db 'RM_PerformanceDataBase2', TRUE  
3> go  
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

## 27. 設定ファイルの修正

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

- (1) DeploymentManager (HP-UX) の以下の設定ファイルに記述を追加して " 管理サーバ名 " を設定してください。

<設定ファイル>

%Program Files%\dpm\_hpux\dpm¥0000¥conf¥opc.properties

上記ファイルのマシン情報のエントリに以下を追加します。

opc.0001.hostname=<管理サーバ名>

例)

opc.0001.hostname=dpm\_cluster

## 28. 使用するポートの変更

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで使用している場合、Web サーバ for DPM が使用する Tomcat とのポートが重複するため、DPM の Web コンソールが表示されません。ポートが重複しないように設定する必要があります。この場合は、ポートの変更を以下の手順に従って変更してください。

ポートが重複していない場合は、本手順を実施する必要ありません。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
- (2) サービス一覧から "Apache Tomcat" のサービスが停止していることを確認します。
- (3) Tomcat をインストールしたフォルダ¥conf¥Server.xml をテキストエディタで開きます。既定値は (C:¥Program Files¥Apache Software Foundation¥Tomcat 6.0) です。また、Server.xml は事前にバックアップを取っておくことを推奨します。
- (4) Server.xml 内の「8005」、「8080」、「8009」を任意の未使用ポート番号に変更します。それぞれ同じポート番号には設定しないでください。

<注意>

修正後のポートには、SigmaSystemCenter 1.3 で使用していたのと同じポートを指定してください。

- (5) Server.xml を保存し、エディタを閉じてください。

=====

## 29. レジストリの変更

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

本手順は、DeploymentManager (HP-UX) と連携設定している場合にのみ実施してください。

待機系サーバのアップグレードインストール時に、引継ぎされなかったレジストリ情報を再度設定します。

本手順では、データファイルの格納フォルダを以下とした場合を例にして記載します。

- ・ SystemProvisioning のインストールフォルダを  
「C:¥Program Files¥NEC¥PVM」
- ・ 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・ Y ドライブの DPM 情報ファイル(HPUX\_DpmSvLst.txt)の格納フォルダを「Y:¥Data」

-----

(1) レジストリエディタを起動します。

1) [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行(R)] を選択します。

2) "regedit" と入力し、[OK] をクリックしてレジストリエディタを起動します。

(2) SystemProvisioning が使用する DPM 情報ファイル(HPUX\_DpmSvLst.txt)の格納先パスのレジストリを共有ディスク / ミラーディスクのパスに変更します。

1) 左サイドビューで HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager\_HP-UX を参照(クリック) します。

2) 右サイドビューに値の一覧が表示されます。

値の名前「DPMLIB\_WebSvFileFolder」の値のデータを以下のように変更します。

<変更前>

C:¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin

<変更後>

Y:¥Data

(3) 変更が完了したら、レジストリエディタを終了してください。

=====

### 30. 現用系サーバからファイルのコピー

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

-----

(1) 現用系サーバから SystemMonitor 性能監視の設定ファイルをコピーします。

<コピー元のファイル>

現用系サーバの SystemMonitor 性能監視のインストールフォルダの bin フォルダの  
rm\_service\_init.xml、rm\_client.xml

<コピー先>

待機系サーバの SystemMonitor 性能監視のインストールフォルダの bin フォルダ



( SystemMonitor 性能監視のインストールフォルダの既定値は  
C:¥Program Files¥NEC¥SystemMonitorPerformance です。)

(2) 現用系サーバから SystemProvisioning の以下のファイルをコピーします。

<コピー元のファイル>

現用系サーバの SystemProvisioning インストールフォルダの Script¥ 配下の  
ファイル

<コピー先>

待機系サーバの SystemProvisioning インストールフォルダの Script フォルダ

( SystemProvisioning インストールフォルダの既定値は  
C:¥Program Files¥NEC¥PVM です。)

---

## 31. サービスの停止

---

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

本手順では「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料」を参照します。

-----

(1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] -  
[サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスのうち、開始状態の  
サービスを停止します。

停止するサービス一覧

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service
- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service

- ESMPRO/SM Trap Redirection

#### [DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management
- SQL Server (DPMDBI)

#### [DeploymentManager (HP-UX)]

- DeploymentManager(HP-UX)
- DeploymentManager(HP-UX) Constructor
- DeploymentManager(HP-UX) Watcher

#### [SystemProvisioning]

- PVMService

#### [SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

#### [SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

- (2) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスのうち、開始状態のサービスを停止します。

ただし、SigmaSystemCenter 1.3 の構築時に「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築

資料」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順を実施してください。

（サービスがスクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定していない場合は、本手順は実施不要です。）

#### 停止するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- Apache Tomcat
- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation
- ESM Base Service

## 32. フェールオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) ブラウザを起動し、URL で “ http://localhost:29003/ ” と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
- (2) 左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
- (3) 「サーバ選択（グループ移動）」画面で、移動（フェールバック）先の現用系サーバを選択し、[OK] をクリックします。  
移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
- (4) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が現用系のサーバ側で、すべて “ 起動済 ” になることを確認します。
- (5) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

=====

### 33. CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの変更

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 クラスタ構築資料」を参照して実施してください。

-----

#### (1) CLUSTERPRO のサービス停止

- 1) WebManager 画面の上部にある [ サービス ] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ停止 (T)」を選択します。
- 2) 「確認」画面が表示されたら [ OK ] ボタンをクリックして停止します。  
処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
- 3) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されるので [ OK ] ボタンをクリックします。
- 4) WebManager 画面の左サイドビューに、「停止」というメッセージが表示されている事を確認します。
- 5) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

#### (2) CLUSTERPRO Builder の起動と構成情報の復元

- 1) WebManager 画面の上部にある [ 設定 ] ボタンをクリックし、CLUSTERPRO Builder を起動します。
- 2) 現在の CLUSTERPRO の構成情報を復元するため、CLUSTERPRO Builder の「ファイル (F)」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「情報ファイルを開く (O)」をクリックします。
- 3) 「開く」画面が表示されたら、  
「1. CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの削除」  
で保存した、現用系サーバ上のフォルダ（例えば C:\%TEMP）を指定し、clp.conf  
というファイル名が表示されているのを確認して [ 開く ] ボタンをクリックします。

(3) スクリプトリソース（またはサービスリソース）とレジストリ同期リソースの復元確認

- 1) 左サイドビューの中で、[Groups] フォルダの中の [failover] をクリックします。
- 2) 右サイドビューの「リソース一覧」タブをクリックし、フェールオーバーグループに設定されているリソースを表示させます。
- 3) 項目名の「タイプ」で、  
“スクリプトリソース”（または“サービスリソース”）  
および  
“レジストリ同期リソース”  
が表示（復元）されていることを確認します。

(4) スクリプトリソース（またはサービスリソース）およびレジストリ同期リソースの構成情報の変更

本手順にて、SigmaSystemCenter 2.1 用に構成情報の設定変更を行う必要があります。  
設定内容の変更点については、「SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 2.1  
の設定内容の変更点」を参照ください。  
変更方法については、問い合わせ窓口にお問い合わせください。

また、SigmaSystemCenter 1.3 で使用していたレジストリ、サービス、SQL インスタ  
ンスのうち、SigmaSystemCenter 2.1 では使用しなくなったものがあります。  
SigmaSystemCenter 2.1 で使用しなくなったものについては、スクリプトリソース  
（またはサービスリソース）およびレジストリ同期リソースから削除してください。

(5) 情報ファイルのアップロードと CLUSTERPRO Builder の終了

- 1) 現在の CLUSTERPRO の構成情報をアップロードするため、CLUSTERPRO Builder の  
「ファイル (F)」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「情報ファイルの  
アップロード (U)」をクリックします。
- 2) しばらくすると「アップロードは成功しました。」という画面が表示されるので、  
[了解] をクリックします。
- 3) CLUSTERPRO Builder を終了し、ウィンドウを閉じます。

(6) CLUSTERPRO のサービス開始

- 1) WebManager 画面の上部にある [ サービス ] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ開始 (A)」を選択します。
- 2) 「確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 3) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色 ( 正常 ) であることを確認します。
- 4) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

=====

### 34. クラスタシステムのリブート

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) WebManager 画面の左サイドビューにある “ クラスタ名 ” を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート (B)」を選択します。
- (2) 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
- (3) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されますので [ OK ] ボタンをクリックします。
- (4) しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
- (5) OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。
- (6) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
- (7) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色 ( 正常 ) であることを確認します。

=====

### 35. CLUSTERPRO での監視対象サービスの監視の停止（現用系サーバでの作業）

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

アップグレードインストール後の設定を実施する前に、監視対象サービスの監視を停止します。

-----

- (1) [スタート] メニューから [すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。
- (2) 「アプリケーション / サービス名」で表示されている、すべてのサービスの監視を停止します。  
表示されているサービス名を、1 サービス毎に以下の方法で “ 非監視 ” に設定してください。

（サービスを “ 非監視 ” に設定する方法）

- ・表示されているサービス名を右クリックします。
- ・ [監視停止] を選択し、「実行確認」画面で [OK] をクリックして監視を停止します。
- ・ この時、監視対象サービスの [監視状態] が “非監視” に変わることを確認してください。

- (3) 表示されている、すべてのサービスが “ 非監視 ” に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

=====

### 36. Web ブラウザのキャッシュクリア（現用系サーバでの作業）

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

ブラウザを起動する端末のブラウザキャッシュのクリアを行ってください。  
キャッシュクリアの方法については、ご利用のブラウザ毎に異なりますので、別途

ご確認をお願いします。

以下、主なブラウザについて記載します。

-----

・ Internet Explorer 7 の場合

- (1) ブラウザのメニューより、[ツール] - [インターネットオプション] - [全般] タブを選択し、[閲覧の履歴] から [削除] ボタンをクリックします。
- (2) [閲覧履歴の削除] 画面が表示されますので、[インターネット一時ファイル] の [ファイルの削除] ボタンをクリックしてください。
- (3) 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] をクリックします。

・ FireFox 3.5 の場合

- (1) ブラウザのメニューより、[ツール] - [最近の履歴を消去] をクリックします。
- (2) [消去する履歴の期間] で [すべての履歴] を選択します。  
また、[消去する項目] にて [キャッシュ]、[Cookie] にチェックが入っていることを確認してください。
- (3) [今すぐ消去] ボタンをクリックします。

=====

### 37. アップグレードインストール後に必要な設定の実施（現用系サーバでの作業）

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

本手順では、DeploymentManager が使用する Deploy フォルダ(共有フォルダ)を、以下とした場合を例にして記載します。

- ・ 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・ Y ドライブの Deploy フォルダ(共有フォルダ)を「Y:\Deploy」



-----

(1) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」(以下、省略します)の  
「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」  
を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。

1) 「3.7.5. Web サーバ for DPM をインストールした場合」  
の手順を実施を行ってください。

2) 「3.7.7. SystemProvisioning をアップグレードインストールした場合」  
の部分は、以下の手順を実施してください。

1. Windows Server 2003 で SystemProvisioning をアップグレードインストール  
した場合、IIS の設定が必要です。選択したすべてのコンポーネントの  
インストール (アップグレード) が完了した後、以下の手順に従って、  
IIS の設定を行ってください。

- ・ [スタート] メニューから [プログラム] - [管理ツール] - [インター  
ネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を選択し、IIS を  
起動します。

- ・ 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」画面が  
表示されます。  
左ペインで [Web サービス拡張] を選択し、[ASP.NET v2.0.50727] の状態を  
[許可] に設定します。

- ・ [OK] をクリックします。

2. SystemProvisioning のアップグレードインストールを行った場合には、  
SigmaSystemCenter の使用を開始する前に、ライセンスキーを登録してくだ  
さい。手順に関しては、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」  
の「1.4 ライセンスキーを登録する」を参照してください。

すべてのライセンスキーの登録完了後、Web コンソールのログアウトを行って  
から、PVMService の再起動を行ってください。

(2) DeploymentManager の管理サーバの詳細設定を行います。

- 1) ブラウザを起動し、Web サーバ for DPM に接続します。
- 2) 管理サーバを選択し、アクセスモードを更新モードに変更します。
- 3) [設定] メニューから [詳細設定] を選択し、「詳細設定」画面を起動します。
- 4) [全般] タブを選択し、以下の設定を確認します。

- ・ IP アドレスに管理サーバ for DPM で使用するフェイルオーバー IP が設定されていること

- ・ 共有フォルダに「Y:\Deploy」(共有ディスク、またはミラー化されたディスクのフォルダ) が設定されていること

- 5) [DHCP サーバ] タブを選択し、[DHCP サーバが別のコンピュータ上で動作している] をオンにします。

サービスの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、該当するサービスの再起動を行ってください。

- 6) [OK] をクリックします。

- 7) ブラウザを閉じて DPM の Web コンソールを終了します。

- (3) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」(以下、省略します)の「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。

- 1) 「3.7.8. SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードした場合」の設定を行ってください。

=====

## 38. フェールオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
- (2) 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェールオーバー) 先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。  
移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
- (3) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて“起動済”になることを確認します。

=====

### 39.Web ブラウザのキャッシュクリア (待機系サーバでの作業)

=====

この作業は「待機系サーバ」の両方で行って下さい。

ブラウザを起動する端末のブラウザキャッシュのクリアを行ってください。  
キャッシュクリアの方法については、ご利用のブラウザ毎に異なりますので、別途ご確認をお願いします。  
以下、主なブラウザについて記載します。

-----

#### ・Internet Explorer 7 の場合

- (1) ブラウザのメニューより、[ツール] - [インターネットオプション] - [全般] タブを選択し、[閲覧の履歴] から [削除] ボタンをクリックします。
- (2) [閲覧履歴の削除] 画面が表示されますので、[インターネット一時ファイル] の [ファイルの削除] ボタンをクリックしてください。
- (3) 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] をクリックします。

#### ・FireFox 3.5 の場合

- (1) ブラウザのメニューより、[ツール] - [最近の履歴を消去] をクリックします。

- (2) [消去する履歴の期間] で [すべての履歴] を選択します。  
また、[消去する項目] にて [キャッシュ]、[Cookie] にチェックが入っていることを確認してください。

- (3) [今すぐ消去] ボタンをクリックします。

=====

#### 40. アップグレードインストール後に必要な設定の実施（待機系サーバでの作業）

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

-----

- (1) 待機系サーバに Administrator でログインします。
- (2) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」(以下、省略します)の  
「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」  
を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。
- 1) 「3.7.5. Web サーバ for DPM をインストールした場合」  
の手順を実施を行ってください。
- 2) 「3.7.7. SystemProvisioning をアップグレードインストールした場合」  
の部分は、以下の手順を実施してください。
1. Windows Server 2003 で SystemProvisioning をアップグレードインストール  
した場合、IIS の設定が必要です。選択したすべてのコンポーネントの  
インストール（アップグレード）が完了した後、以下の手順に従って、  
IIS の設定を行ってください。
- ・ [スタート] メニューから [プログラム] - [管理ツール] - [インター  
ネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を選択し、IIS を  
起動します。
  - ・ 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」画面が

表示されます。

左ペインで [Web サービス拡張] を選択し、[ASP.NET v2.0.50727] の状態を [許可] に設定します。

- ・ [OK] をクリックします。

---

#### 41. フェールオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

---

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

-----

- (1) 左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
- (2) 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェールバック) 先の現用系サーバを選択し、[OK] をクリックします。  
移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
- (3) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が現用系のサーバ側で、すべて“起動済”になることを確認します。

---

#### 42. 管理対象マシンのアップグレードインストール

---

管理サーバ for DPM をアップグレードインストールした場合、クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールが必要になります。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

-----

- (1) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」の「3.8. 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする」および「DeploymentManager

ユーザーズガイド基本操作編」の「23.5 クライアントサービス for DPM の上書きインストール」を参照して、クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールを実施してください。

以上でアップグレードインストール作業は完了です。

## SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 2.1 の設定内容の変更点

SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 2.1 の設定内容の変更点は以下のとおりです。

### (1) データベース

SigmaSystemCenter 2.1 で追加されたデータベース

SigmaSystemCenter 2.1 で DeploymentManager のデータベースが追加されました。

[DeploymentManager]

- ・ サービス: MSSQL\$DPMDBI  
表示名: SQL Server (DPMDBI)  
データベースファイル: DPM\_DATA.mdf, DPM\_LOG.ldf  
データベース名: DPM

SigmaSystemCenter 2.1 で変更されたデータベース

SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 2.1 では、SystemProvisioning、および、SystemMonitor 性能監視が使用する SQL のインスタンス名が変更されました。

それに伴い、インスタンスのサービスが変更されました。

データベースは変更ありません。

[SystemProvisioning]

- ・ SigmaSystemCenter 1.3  
サービス: MSSQL\$PVMINF\_INSTANCE  
表示名: MSSQL\$PVMINF\_INSTANCE  
データベースファイル: PVMINF.mdf, PVMINF\_log.ldf  
データベース名: PVMINF
- ・ SigmaSystemCenter 2.1  
サービス: MSSQL\$SSCCMDB  
表示名: SQL Server (SSCCMDB)  
データベースファイル: PVMINF.mdf, PVMINF\_log.ldf

データベース名: PVMINF

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービス名、表示名は、それぞれ "MSSQL\$インスタンス名"、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

#### [SystemMonitor 性能監視]

- SigmaSystemCenter 1.3

サービス: MSSQL\$RM\_PFMDBIS

表示名: MSSQL\$RM\_PFMDBIS

データベースファイル: RM\_PerformanceDataBase2.mdf,  
RM\_PerformanceDataBase2\_log.ldf

データベース名: RM\_PerformanceDataBase2

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、変更後のインスタンス名 となります。

- SigmaSystemCenter 2.1

サービス: MSSQL\$SSCCMDB

表示名: SQL Server (SSCCMDB)

データベースファイル: RM\_PerformanceDataBase2.mdf,  
RM\_PerformanceDataBase2\_log.ldf

データベース名: RM\_PerformanceDataBase2

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービス名、表示名は、それぞれ "MSSQL\$インスタンス名"、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

## (2) 同期レジストリ

SigmaSystemCenter 2.1 で削除されたレジストリ

SigmaSystemCenter 2.1 で SystemMonitor 障害監視のレジストリは削除されました。

#### [SystemMonitor 障害監視]

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥RM¥Service¥Common



SystemMonitor 障害監視は、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。

### (3) 監視対象のサービス

SigmaSystemCenter 2.1 で追加されたサービス

[DeploymentManager]

- ・表示名: DeploymentManager Control Service  
サービス: RibBoneService
- ・表示名: SQL Server (DPMDBI)  
サービス: MSSQL\$DPMDBI
- ・表示名: Apache Tomcat  
サービス: Tomcat6

[SystemProvisioning および SystemMonitor 性能監視]]

- ・表示名: SQL Server (SSCCMDB)  
サービス: MSSQL\$SSCCMDB

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービス名、表示名は、それぞれ "MSSQL\$インスタンス名"、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

SigmaSystemCenter 2.1 で削除されたサービス

[DeploymentManager]

- ・表示名: Apache Tomcat  
サービス: Tomcat5

[SystemProvisioning]

- ・表示名: MSSQL\$PVMINF\_INSTANCE  
サービス: MSSQL\$PVMINF\_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- ・表示名: MSSQL\$RM\_PFMDBIS  
サービス: MSSQL\$RM\_PFMDBIS

インスタンス名を既定値 (RM\_PFMDBIS) より変更した場合、  
変更後のインスタンス名 となります。

#### [SystemMonitor 障害監視]

- ・表示名: SystemMonitor Service  
サービス: smonservice
- ・表示名: SystemMonitor ESMPRO Service  
サービス: smonesmservice
- ・表示名: SystemMonitor VM Service  
サービス: smonvmservice

SystemMonitor 障害監視は、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。

#### (4) サービスの起動順/起動方法

SigmaSystemCenter 2.1 で変更されたサービスの起動順/起動方法

#### [DeploymentManager]

- ・SigmaSystemCenter 1.3

表示名	サービス
1. Apache Tomcat	Tomcat5
2. DeploymentManager API Service	apiserv
3. DeploymentManager Backup/Restore Management	bkressvc
4. DeploymentManager Client Management	cliwatch
5. DeploymentManager client start	clistart
6. DeploymentManager Get Client Information	depssvc
7. DeploymentManager PXE Management	PxeSvc
8. DeploymentManager PXE Mtftp	PxeMtftp
9. DeploymentManager Remote Update Service	rupdssvc
10. DeploymentManager Scenario Management	snrwatch

- |   |          |
|---|----------|
| 11. DeploymentManager Schedule Management | schwatch |
| 12. DeploymentManager Transfer Management | ftsvc    |

• SigmaSystemCenter 2.1

表示名	サービス
1. SQL Server (DPMDBI)	MSSQL\$DPMDBI
2. Apache Tomcat	Tomcat6
3. DeploymentManager API Service	apiserv
4. DeploymentManager Backup/Restore Management	bkressvc
5. DeploymentManager Client Management	cliwatch
6. DeploymentManager client start	clistart
7. DeploymentManager Control Service	RibBoneService
8. DeploymentManager Get Client Information	depssvc
9. DeploymentManager PXE Management	PxeSvc
10. DeploymentManager PXE Mtftp	PxeMtftp
11. DeploymentManager Remote Update Service	rupdssvc
12. DeploymentManager Scenario Management	snrwatch
13. DeploymentManager Schedule Management	schwatch
14. DeploymentManager Transfer Management	ftsvc

[DeploymentManager (HP-UX)]

• SigmaSystemCenter 1.3

1. DeploymentManager (HP-UX)
2. DeploymentManager (HP-UX) Constructor
3. DeploymentManager (HP-UX) Watcher
4. Tomcat

• SigmaSystemCenter 2.1

1. DeploymentManager (HP-UX)
2. DeploymentManager (HP-UX) Constructor
3. DeploymentManager (HP-UX) Watcher

[SystemProvisioning]

• SigmaSystemCenter 1.3

1. データベースの起動: MSSQL\$PVMINF\_INSTANCE

2. サービスの起動

pvmcmd /start

• SigmaSystemCenter 2.1

1. データベース: SQL Server (SSCCMDB)

2. PVMService

[SystemMonitor 性能監視]

• SigmaSystemCenter 1.3

1. データベース: MSSQL\$RM\_PFMDBIS

2. System Monitor Performance Monitoring Service

• SigmaSystemCenter 2.1

1. データベース: SQL Server (SSCCMDB)

2. System Monitor Performance Monitoring Service

SigmaSystemCenter 2.1 で削除されたサービスの起動

SigmaSystemCenter 2.1 で SystemMonitor 障害監視のサービスは削除されました。

[SystemMonitor 障害監視]

• SystemMonitor Service

• SystemMonitor ESMPRO Service

• SystemMonitor VM Service

SystemMonitor 障害監視は、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。

(5) サービスの停止順/停止方法

SigmaSystemCenter 2.1 で変更されたサービスの停止順/停止方法

## [DeploymentManager]

### • SigmaSystemCenter 1.3

表示名	サービス
1. DeploymentManager Transfer Management	ftsvc
2. DeploymentManager Schedule Management	schwatch
3. DeploymentManager Scenario Management	snrwatch
4. DeploymentManager Remote Update Service	rupdssvc
5. DeploymentManager PXE Mtftp	PxeMtftp
6. DeploymentManager PXE Management	PxeSvc
7. DeploymentManager Get Client Information	depssvc
8. DeploymentManager client start	clistart
9. DeploymentManager Client Management	cliwatch
10. DeploymentManager Backup/Restore Management	bkressvc
11. DeploymentManager API Service	apiserv
12. Apache Tomcat	Tomcat5

### • SigmaSystemCenter 2.1

表示名	サービス
1. DeploymentManager Transfer Management	ftsvc
2. DeploymentManager Schedule Management	schwatch
3. DeploymentManager Scenario Management	snrwatch
4. DeploymentManager Remote Update Service	rupdssvc
5. DeploymentManager PXE Mtftp	PxeMtftp
6. DeploymentManager PXE Management	PxeSvc
7. DeploymentManager Get Client Information	depssvc
8. DeploymentManager Control Service	RibBoneService
9. DeploymentManager client start	clistart
10. DeploymentManager Client Management	cliwatch
11. DeploymentManager Backup/Restore Management	bkressvc
12. DeploymentManager API Service	apiserv
13. Apache Tomcat	Tomcat6
14. SQL Server (DPMDBI)	MSSQL\$DPMDBI

## [SystemProvisioning]

### • SigmaSystemCenter 1.3

1. 運用管理ツールの停止

taskkill /F /IM PVMConsole.exe

2. サービスの停止

pvmcmd /stop

3. サービスの強制停止

pvmcmd /killproc

4. データベースの停止: MSSQL\$PVMINF\_INSTANCE

- SigmaSystemCenter 2.1

1. PVMService

2. データベース: SQL Server (SSCCMDB)

[SystemMonitor 性能監視]

- SigmaSystemCenter 1.3

1. System Monitor Performance Monitoring Service

2. データベース: MSSQL\$RM\_PFMDBIS

- SigmaSystemCenter 2.1

1. System Monitor Performance Monitoring Service

2. データベース: SQL Server (SSCCMDB)

SigmaSystemCenter 2.1 で削除されたサービスの停止

SigmaSystemCenter 2.1 で SystemMonitor 障害監視のサービスは削除されました。

[SystemMonitor 障害監視]

- SystemMonitor VM Service

- SystemMonitor ESMPRO Service

- SystemMonitor Service

SystemMonitor 障害監視は、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。

作成日：2009.10.02